

## IAMAP コーナーを始めるにあたって

国際気象学大気物理学協会 (IAMAP) の第 6 回科学会議 (IAMAP-93) を 1993 年に日本で日本気象学会と日本学術会議の共催で開催することが、今年 3 月日本学術会議で認められ、IAMAP 開催に向けて本格的な準備がスタート致しました。また今年 8 月にウィーンで開催される IUGG 総会において、会議の概略が決められ

ます。

編集委員会では、会員の皆様に IAMAP-93 の準備状況やその他最新の情報をお知らせするために、「天気」誌上に IAMAP コーナーを設けることに致しました。

(「天気」編集委員会)

## 国際気象学大気物理学協会 (IAMAP) 第 6 回科学会議開催について\*

浅井 富雄\*\*・村上 勝人\*\*\*

1993 年日本で IAMAP 総会が開催されることは既に御承知の通りですが、1991 年 3 月日本学術会議も第 6 回 IAMAP 総会を日本気象学会と共催することを決定しました。1991 年 8 月ウィーンで開かれる IUGG 総会の期間中に IAMAP-93 の骨格が組み立てられます。本格的な開催準備段階に入りました。今後、その進捗状況を本誌上に逐次報告することにしますが、今回はその最初でありますので、これまでの経過や計画の概要をまとめて述べることにします。尚、IAMAP については本誌「天気」第 37 巻第 6 号 (1990 年 6 月) に詳しく説明されていますのでそれを御覧ください。

### 1. 開催にいたる背景と経緯

我国の気象学研究は近年急速に活発化しつつあり、1970 年代の地球大気開発計画 (Global Atmospheric Research Programme, 略称 GARP) や、1980 年代の中層大気国際共同観測計画 (Middle Atmosphere Programme, 略称 MAP)、気候変動国際協同研究計画 (World Climate Research Programme, 略称 WCRP) 等の国際協同研究への参加を始め、我国研究者の国内外での活躍により国際的な評価も高まっている。

一方、地球温暖化、オゾン層破壊、酸性雨、砂漠化等

の地球環境問題を契機にして、特に異常気象や気候変動の機構解明と予測等に関し、気象学研究の重要性が社会的にも一段と強く認識されてきている。また、日々の天気予報の精度向上およびよりきめの細かい局地短時間予報の科学的基礎の確立と実用化のための研究・開発は国連総会で決議された国際防災の十年 (International Decade for Natural Disaster Reduction, 略称 IDNDR) の活動に貢献するものであり、自然災害の防止・軽減、社会生活の向上に寄与するところが大きい。

IAMAP はこれら気象学・大気物理学の研究を発展させる最大の国際組織であり、日本での開催が国内外から強く希望されるようになった。

このような背景のもとで 1980 年代に入って日本気象学会理事会、日本学術会議気象学研究連絡委員会等の関係者の間で IAMAP 総会の日本誘致が検討され始めた。その後紆余曲折があったが最近数年間の動きをまとめると次のようになる。

1986~1987 年：気象学研究連絡委員会は公式・非公式会合を重ね、IAMAP 第 6 回総会 (1993) の誘致について検討した。誘致することで意見がまとめられたが、主体となる日本気象学会での検討結果を待って最終決定をすることとした。

1987 年~1988 年：日本気象学会常任理事会は誘致する方向で検討していたが、一方、日本気象学会評議員会でも日本へ誘致する努力を促された。

1989 年 5 月 24 日、日本気象学会理事会および翌 5 月 25 日、同総会において誘致することが承認された。この日

\* On the Sixth Scientific Assembly of the International Association of Meteorology and Atmospheric Physics (IAMAP).

\*\* Tomio Asai, 東京大学海洋研究所.

\*\*\* Masato Murakami, 気象研究所.

本気象学会の決定を受け、1989年6月23日、気象学研究連絡委員会は誘致を決定し、IAMAP-93 作業委員会を設置し、IAMAP 第5回総会への提案をまとめた。

1989年8月9日、連合王国 Reading 大学で開催された IAMAP 第5回総会において我国の提案が満場一致で可決され、IAMAP 第6回総会の日本開催が決定された。一方、1989年5月米国で開催された IAHS 総会は、1993年第4回 IAHS 総会を日本で開催することが決定されていた。また、IAMAP、IAHS はともに合同会議として総会を開催することを決定している。1990年12月、日本気象学会は水文関係13学協会と共同で、第6回 IAMAP 科学会議及び第4回 IAHS 科学会議合同国際会議の共催を日本学術会議に申請し、1991年3月その申請が受理承認された。

## 2. 会議の計画概要

第6回国際気象学大気物理学協会科学会議および第4回国際水文科学協会科学会議合同国際会議は、IAMAP および IAHS がこれまで独自に開催してきた国際科学会議を合同で開催するものであり、これら二つの協会が合同して世界の気象学・大気物理学、陸水・水文科学関連分野の研究者を一堂に集め、地球環境問題への理解を深めるとともに、21世紀に向けて各研究分野における取り組みを討議することを目的とするものである。

今回の合同国際会議においては地球環境問題に関する研究分野のうちで IAMAP 及び IAHS の双方にかかわるエネルギー・水循環、地表面・大気相互作用、気候変動と水資源、汚染と地球環境、リモートセンシング技術等の各テーマについて合同シンポジウムを開催すると共に、会期中に並行して開催される分科会への自由な参加を奨励して研究交流及び討議を推進する。

IAMAP には大気化学・地球規模汚染、大気電気、気候、雲物理学、気象力学、高層気象学、オゾン、惑星大気と進化、極気象学、放射等10の国際委員会が設けら

れていて、それぞれも独自の活動をしているが、本会議期間内にはほぼ4会場に調整・統合して研究集会が開催される。

### (1) 会議の構成

第6回国際気象学大気物理学協会科学会議と第4回国際水文科学協会科学会議を会期中に並行して開催する。IAMAP は独自のシンポジウム、分科会、ワークショップ等の他 IAHS と合同会議はもとより、IAPSO、IAGA、WMO、JSC for WCRP 等の学協会や組織との合同シンポジウムを計画する。

### (2) 開催期間

1993年(平成5年)7月12日～7月23日(12日間)

### 開催場所

神奈川県横浜市中区尾上町

パシフィコ横浜(株式会社横浜国際平和会議場)

## 3. 組織体制

IAMAP 科学会議に関わる国内運営団体は、日本気象学会であるが、IAHS 科学会議には陸水・水文関係の13学会が関わることになっている。この二つを合同する合同国際会議を日本学術会議が共催することになったことにより“合同国際会議”組織委員会が学術会議、気象学会、陸水・水文関連13学会の合同で組織されることになった。しかしながら IAMAP 及び IAHS は合同分野の他にそれぞれ独自分野も有しており、全てを合同の組織委員会で討議することは能率的でない。このような独自部分の運営を組織するため、上記の合同組織委員会の他に IAMAP、IAHS それぞれの組織委員会も結成される。気象学会においても合同組織委員会への代表者も含めた拡大メンバーで IAMAP 組織委員会及び募金委員会を結成することになった。組織委員会の規模は約20～30名程度となるが、この中からさらに実行委員会のメンバーを選出して実務にあたる構想である。またこれら委員会活動を支える事務局は、気象研究所を中心とするメンバーで構成する。